

片山 晃さんからの紹介 『 山本 陽介さんを訪ねて 』



産まれた時から

子どもの時から、地元の地車に触れていました。自然に私の一つに地車がありました。父に連れられて岸和田の地車祭に連れて行って貰って、ますます地車が好きになりました。

地車の装飾の彫刻に惹かれて、中学生の頃から彫師さんの事は知っていました。興味がありまして、高校一年生の後半から、月に2〜3回は岸和

彫師の道へ

田のあちこちの工房に出かけて行って見学させて貰っていました。本当は、中学校を卒業したらこの道に入りたかったんですが、高校だけは出るように言われ卒業しました。そして中学生の頃から憧れていた彫師の道に迷わず弟子入りしました。

憧れていた彫師の道に入れましたのも、今こうして彫師の道を歩んでおられるのは、引き受けて

プロフィール

昭和57年 12月14日富田林市生まれ
平成13年 高校卒業と同時に、筒井 伸師、岸田恭司師に弟子入り
平成22年 独立し、生まれ育った富田林市に工房を構える

日々精進

貰えた師匠のお陰だと感謝しています。私は特別なんですが、筒井伸さんと岸田恭司さんの二人の師匠にお世話になりました。お二人共一門の師匠で、十年間みっちりとお二人に育てて貰いました。特に岸田師からは、「華美になりがちな彫刻作品の、空間の美を大事にして主題を光らせる技術」を学びました。厳しかった修業時代の十年を経て、二十七歳の時に岸田師匠の力添えで独立する事が出来ました。工房を構えるのなら、生まれ育った地元の富田林でと考えていました。

辛かった事は修業時代からありました。それ以上に好きで遣り甲斐がある方が大きかったです。頑張れたと思います。独立して七年、苦労や悩みもあります。何もかもひっくり返るめて幸せやと

作品と向き合って

思っています。地車が好きで、この世界に入って作品を仕上げているんですが、仕上がった作品で評価が決まる訳です。自分の自信イコール、世間の評価とはなりません。仕事を頂く度に、施主さんの意向を伺って、史料等を参考にしそれに合う作品のイメージ作りをします。

作品のデザインが決まれば、荒彫りなら一体一週間もあればできます。一つのパーツなら二カ月位掛かります。作業中は没頭して、より良い物を作りたいと思って、一分一秒、一撃、一撃が勝負やと思っています。

毎日の事なので、時間は決めてやっています。が、忙しくなれば残業もします。今は、中村貴行さん(26歳)が弟子入りして六年、片腕となつて